

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議を通して、地域の皆様にグループホームの意義等について話す機会を増やしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	避難訓練等を隣近所さんば皆様もお誘いし、実施していきたいと思っている。

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	少数ではありますが、近隣の方で認知症高齢者を在宅でお世話している方の相談を受けています。(愚痴を聞いたりすることが中心。) 又、中学生・高校生の職場体験を受け入れています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果をユニット入り口に常備しているが、管理者以外はあまり意識しておらず、活用されていない。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではグループホームの活動報告のほか、委員から地域情報の提供をうけ、活動予定の参考にさせていただいています。又、災害時のグループホームの活用などについて意見を伺っています。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適宜相談し、ご指導いただいておりますが、どうしても問題が発生した場合に行くだけになっています。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をつくれていない。	○ 来期(9月から)実施予定の月例研修の年間計画に盛り込む予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月例研修にて、虐待防止について伝達している。資料も全スタッフ配布し、周知に努めている。又実際にあった虐待事例をつかって虐待が知らないうちに行われている実態を話し、自己反省を促している。	

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書・重要事項説明書の説明を行い、随時解らないこと、疑問点に関しては回答し、双方同意のもとにご入居いただいています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情に常に注意を払い、少しでも気になるときは、声掛けを行っています。必要に応じてスタッフと一対一で話せる環境を作り、個人的な不満や苦情を速やかに解決できるように努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや健康状態についての報告は電話や面会時に行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書にてご家族に伝達しています。又年1回法人本部よりご家族へアンケートを実施し、その結果を法人本部が管理者に伝え、改善等の進捗を法人本部へ管理者が報告するシステムになっています。ホーム玄関には『意見箱』を設置してあります。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼・全体会議・ユニット会議に参加し、スタッフの意見を聞く機会をつくり、意見を反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別の要望や緊急時など、迅速に対応しているが、それをする為に、管理者及びそれに準ずる職員がオーバーワークをしているのが現実である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のスタッフ 18名中 11名は開設当初からの職員である。管理者は職員のニーズを正確に捉え、離職を最小限に抑える努力をしている。又、職員入れ替えの際は、約半月間は先輩スタッフが指導し、指導スタッフのOKが出ないと、一人で業務に入ることができないシステムになっています。	○	離職防止の為、研修・給与システムの改善等行っており、比較的離職は少ないが、やむ終えない離職もある。その際後任者を数あわせて採用しないことが長期的な質の確保につながると考えている為、なかなか思うような採用ができないのが現実である。

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	同法人運営の山梨県内4ホーム合同の研修会を実施しています。他ホームのスタッフに良い刺激を受けることを目的としています。9月からは2名づつ半年間毎、スキルアップ研修を実施する予定です。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際は、関係者からも情報を集めた上で、本当にグループホームのケアが必要なかどうか相談者とじっくり相談し、必要に応じて地域包括支援センターや他サービス事業者を紹介し、適切なサービスが受けられるように配慮しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限りご本人様には、入居前にホームを見学していただき、安心して入居していただけるように努めています。又、入居後すぐに、ドライブや外食などイベントを開催し、既存のご入居者様との精神的な距離を縮める工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は『グループホームは介護施設ではなく、認知症高齢者とスタッフの下宿である』と御家族やスタッフに常に言っている。ご入居者様とスタッフが互いの苦手な部分を補いながら生活しています。ご入居者様とスタッフが見た目で見分けが難しく、制服やエプロンは使用していません。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	花見や納涼祭などの行事にはご家族の皆様にも多数参加いただき、ご本人共々楽しんでいただいております。又、日々細かなことも電話等で連絡を取り、一緒に考えていただくようにしております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居の際は、ご本人様の生活暦シートをご家族様に細かく書いていただいております。スタッフはそれを元に家族背景や生活背景を理解し、それを生かしたケアに努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出の際に、行きたい場所に行ったり、会いたい人に会ったりしていただいております。	○	個別に金融機関などの馴染みの場所に出向いていますが、ご本人が希望する日時に行けるようにしていきたいと考えています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩・調理・清掃など入居者様・スタッフが状況に応じて役割を分担し生活しています。その中で、できることできないことはそれぞれありますが、お互いに補いながら生活できています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在に至るまで、数名の利用者の退去がありました。その都度、退去後の生活が円滑に進む支援をさせていただいております。又、その際『何かありましたら、遠慮なく相談してくださいね』と付け加え、実際に、相談をしてきてくださるご家族がおられます。	○	原則的には『終の棲家』にグループホームがなるようにしていきたいと考えています。現状はターミナルケア(看取り)を行っておりますが、全てのご利用者様が環境を変えることなく生活していただけるようにスタッフ教育やハード面を充実させていきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での訴えや表情の変化からご本人の思いや考えを推測し、それとなく確認したり、必要に応じて一対一で面談をしてご入居者様の真意を正確に把握するように努めています。常に当ホームのスローガン『入居者様がよければそれでいいじゃん』を行動の指針として物事を考えるように指導しています。	○	ご入居者様の意向に沿うには、スタッフが常に前向きな考え方でいなければなりません。その為、月例研修の際は必ず前向き思考になる為の話をするようにしており、前向きな姿勢のスタッフが非常に増えてきました。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際、ご家族に生活暦シートを提出していただき、それにより把握していますが、ご入居後は、その生活暦を話の中に盛り込み、確認するように努めています。又、可能な場合は契約や引越しの際に住まわれていたご自宅を訪問し、環境の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できることできないことを正確に把握し、できないことよりもできることに着目し、残存能力の維持向上に努めています。まだまだ不十分であると感じています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間での情報共有は計られているが、新たなアイデアや意見が乏しく、ケアマネージャー・管理者の力量に左右される面が多い。	○	カンファレンスにご家族にも参加していただき、より良いケア計画になるように努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期・不定期(状態変化時)の介護計画の変更は行われている。しかしながら、実際のケアは瞬間瞬間で変更し、タイムラグが生じないように努めている為、書面でのケアプランは後手後手に回ることが多い。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施記録を通常の介護記録の他に記録している。ケアプラン実施記録は日々のケアの反省もできると同時に○×△形式の為、見やすく、介護スタッフも日々モニタリング意識が向上している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できる限り、ご本人の要望に速やか、且つ柔軟に対応できるように努めています。ご家族の状況は一般的に受診介助ができる状態ではない為、日々の受診は極力当ホームスタッフにて行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員をはじめ、自治会の皆様、ボランティアの皆様から情報提供や実際に協力していただき、夜間の盆踊りや運動会等への参加を行っています。又、小学校の福祉授業や中学生の職場体験を受け入れ交流を図っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、病院や福祉用具事業者と連絡を取り、支援しています。最近では重度化のため、介護用ベッドが必要になるケースが増加しておりますが、GH内では介護保険でのベッドのレンタルが使えない為、当法人とベッド会社で協力し、自費ではありますが、月額4000円で介護用ベッドがレンタルできるようにしました。	○	地域包括支援センター主催のケアマネ交流会に積極的に参加し、情報交換を行っていきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には必ず、地域包括支援センターの担当者が参加していただき、意見をいただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後も診ていただくか、往診医または近隣の専門医に診ていただくかは、ご家族の生活状況を含めて、適宜選択していただいております。決定後はかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援しております。又、受診状況等は速やかにご家族に報告しています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科医ならびに精神科医と連携を取り、適宜診療・治療・相談ができる体制ができております。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週火曜日に訪問看護師に訪問していただき、健康管理の相談や、アドバイスをいただいています。又、24時間訪問看護師と連絡がつくシステムになっており、必要に応じてアドバイスをいただいております。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、必ず管理者またはそれに準ずるものが付き添い、病院側からの情報提供が速やかにいただけるようお願いしています。又、入院中はできるだけ見舞い、その都度看護師等から情報提供をいただいております。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、『重度化した場合における医療体制指針』の文書を公表し、もしもの場合にどうしていくのかをいくつかの選択肢を例に出しながら説明しています。又、入居後も体調の変化に応じて繰り返し話す機会を設けています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアはすでに実施しており、関係機関との連携も図れています。しかしながら介護職は『死』への恐怖心・不安感が強い為、介護職として『死』とどのように向き合ったらよいか？というテーマで研修を繰り返しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、当ホームの持つ情報を正確に引き継ぐと共に、住み替え後も連絡を密に取り、情報提供を行っています。又住み替えが必要にならないようにスタッフ教育・設備の充実を図っています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づき管理しています。声掛けや対応はさりげなく行うように指導しています。居室はあくまでも入居者様の個人空間であることを理解し、入る際には許可を得るように努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者本人に決定していただくように努めています。決してスタッフ側の自己満足による押し付けにならないように、選択肢を個々にわかる方法で提示し、できるだけご本人の意思で生活をしていただいています。又、希望が速やかに実現できるように努力しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本になる生活の流れは一応あるが、それにとらわれずに臨機応変な対応を心掛けています。『何もしないことを怖がらず、ご本人が過ごしたいようにしていただいています。』又、希望を直接聞かせていただくようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容業者に、希望者が一人でも来てもらえるようにしています。又、訪問理容以外の店へ行けるようにしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、準備から片付けまで一緒に行くことにより、『うまい・まずい』を共感し、一人一人の好みの変化に注意を払っています。日々の情報を外食などに生かし、なかなかホームで提供できない食事を外食で補うように努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好品と一緒に買い物に行き、日常的に楽しめるようにしています。	

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を個別に行い、排泄の失敗が限りなくゼロに近づくように努めています。万が一失敗した際もさりげない介助により、自尊心を傷つけることの無いように努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂をたて、希望者は毎日でも入浴できるように努めています。入浴をしたがらない方には、無理強いせず、できる限り本人の意思に任せ、入浴が嫌いにならないよう努めると共に、入浴した際には入浴が苦痛にならないための環境整備を心掛けています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の中で、個人のペースで過ごせる時間を大半にして、常に安心して生活でき、不安感を持たない環境作りに努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、個々の状態に応じた役割を持っていたり、生活の一部になっています。また必ず『ありがとうございます』の言葉を忘れずに少しでも達成感を感じてもらえるように努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理はホーム側で行っていますが、家族の了解を得て、個人で少額の管理をしている方もいます。買い物の際は、商品を選んでいただき、スタッフ見守りの上で、できる限り金銭の授受を入居者様に行っていただくように努めています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけています。その散歩は単なる散歩ではなく、できる限り買い物など目的のある散歩にするように努めています。又、外食や行事等を毎月企画し、ホーム内とは違った環境で楽しんでいただけるように工夫しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	例えば、自宅の雑草が気になったりするには、ご家族の了解を得て、自宅に向いたり、金融機関・墓参りなど馴染みの場所にスタッフ・他利用者が日々の状況に合わせて出かけています。同行が難しい場合にはご家族に協力を仰ぎ、実施できるように努めています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム設置の電話は自由に使うことができます。又、ご家族と定期的に手紙の交換を行ったり、書中見舞い・年賀状を出したりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	9時から20時までには自由に面会できます。ご家族の事情に応じては時間外の面会も実際行われております。又、面会は居室で個別の時間を過ごしていただくように心掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束廃止要綱を掲示していますが、職員全体に具体的な禁止行為が周知されるまでには至っておりません。	○	同法人運営の山梨県内合同研修にて理解・見識を深めていきたいと考えています
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に外へ出られない環境は大きな意味で、身体拘束に当たることは全スタッフが理解しており、鍵をかけず、日中自由に外に出られる環境づくりは約3年前から実施されています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	鍵をかけていないため、センサーを利用するなどの方法で入居者様の所在は常に把握するように努めております。昼夜問わず、館内全体を見渡せる場所にスタッフがいますようにし、安全の確保に努めています。入居者様の居室訪問の際は許可を得てから入室するように心掛けています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬品などは施錠や手の届かない場所に保管していますが、入所者様の希望や状態に応じて、個別に対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設初年度からリスクマネージメントを全スタッフに徹底しており、新人の導入研修の際、先輩スタッフが徹底して指導しています。又事故報告書ヒアリハット報告書がなぜ必要なのかをハインリッヒの法則をふまえて繰り返し指導しています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルをユニット毎設置し、有事に備えています。が、応急処置などの訓練は実施できていません。	○	消防署の協力を得た応急処置訓練を行います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日々の散歩や地域の行事に参加し、グループホームへの理解を働きかけています。しかし、実際の災害を想定した避難訓練は不十分である。	○	消防計画に基づき5月・11月に消防署の協力を得た避難訓練を実施していきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時はもとより、ケアプラン変更時にその時々々の状況をご家族に説明し、対応策を考えています。	○	今後さらに連絡を密に取り、対応策を話し合っていきます
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日最低2回のバイタルチェックを行い、体調の変化に注意を払っています。又、少しでも様子がおかしい場合は訪問看護ステーションや主治医に連絡し、速やかな対応に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットリーダーは一人一人の服薬目的や副作用を理解していますが、全スタッフに周知はできていません。しかし、服薬マニュアル実施により服薬事故の防止に努めています。	○	全スタッフが服薬目的、副作用を理解できるように書面口頭による指導を行ってまいります。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響をおおむね理解しており、運動・水分補給・服薬など、便秘にならない工夫を行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを必ず実施していただけるように声掛けを行っています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎食記録し、総合的な栄養摂取を把握し、状態に応じた支援を行っています。又自由に茶・コーヒー等が飲めるようになっており、状況に応じてジュースなども提供しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルをユニット毎に整備し、実施しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾・コップを漂白消毒し、まな板・包丁・食器についてもその都度加熱消毒を行っています。食材については必要なものを必要なだけ購入しており、常に新鮮な食材の提供に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺は木や花が植栽されており、玄関には季節の草花を置き、明るく入りやすい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔にしており、カレンダーや写真など季節感のある雰囲気づくりを心掛けている。またスタッフは入居者様に配慮し、大声や騒音を出さないように心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にはベンチを配置し、ご入居者同士がゆったり過ごせる空間がある。ホーム内リビングには3人掛けソファ2個を配置し、自由に寝そべてテレビを見たり、みんなで映画鑑賞したりすることができる。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具は無く、全て、使い慣れたものや思い出深い品を持ってきていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室をはじめ、館内には多数の換気設備が備え付けられており、匂いや空気のだよみが無いようになっています。温度調節はこまめに行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・階段には手すりが設置されており、入居者様の身体機能を活かせるようになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室の表示は入居者様の目線にあわせており、混乱や失敗が最小限になるように心掛けています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には菜園があり、季節の野菜を作り食事作りに活かしています。又、建物の周りには植栽を配置し、季節の花が楽しめるようになっています。		

事業所名：愛の家グループホーム甲府後屋

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームを終の棲家にする事に一番力を入れています。設備・人員配置の問題等まだまだ課題は多いですが、同法人運営の山梨県内4ホームで協力し、どんな場面でも利用者が望む限り当ホームをご利用していただける状態を作っていくよう創意・工夫を行ってまいります。